

遊戯と體操

|| リー氏に據る ||

紹 介 子

遊戯は教へられる必要がある。遊戯は教授を要求して後に、始めて成長の原理の一部分たり得るのである。子供といふものは、その本能的の性向の一結果として、その種族の傳習の上に成人せしめらるゝものである。而して教授は、假令それが遊戯本能によつて誘はれなかつた時に於てすらも行爲を有益に指圖し、従つて成長を決定するものである。子供は、自ら學びたいと望まないことを教へられて益を得る場合を屢々持つのである。

故に事實と傳習との教授に就て眞なることは、身心の訓練廣義に於ける訓化、教化に就ても眞である。

例へば私達は體操が遊戯でないのに筋肉を作る

ことを知つて居る。水夫や日雇人足は非常に骨の折れる仕事を日々繰返して居るにも拘らず、生理的に發達して居る。ピアノの音の具合を調べて居る場合には、その演奏者はそれが遊戯であること必要としない、而かも隣人にとつてはそれが喜びであるのである。

同じ事が熟練の多くの形式に就て眞であり得る力技的訓練は、それが單なる骨折仕事に過ぎない場合にも、要求した結果の幾部分かを産み出すものである。心意さへも、厭々ながら追求した研鑽によつて、發達せしめられ得るのである。

勞働——一つの仕事を擱へて、好き嫌ひなどを言はずに、しつかりと嚙り付いて居る——とは恐

らく、或る時期に於ける少年を最もよく成長せしめるものであらう。けれどもこれは遊戯意思を外部に放散せしむる所以ではない。

尤も遊戯に限らず、或る機關を働かしむるところのあらゆる活動の形式といふものは、その機關を發達せしめる。マッサージでさへも、筋肉を成長せしめるのである。

一般的に、すべて働かせらるゝものは成長する。然る時に教育的見地より、或る與へられたる活動に關しての重要な質問は、

如何なる力と機關とがそれをして働かしむるかといふことである。何故ならば、尠くも、それによつて齎らされた成長はその活動の進みよりも以上の進みを得ることは出来ないし、使はれなかつた機關は全然影響を受けることがないといふことが明かであるからである。マッサージや體操は、筋肉を發達させるけれども、心に達することは出来ない。——尠くも、遊戯が同じ筋肉を用ゐて、心に

達するやうな調子で、心に達することは出来ない。又マッサージや體操は、心と筋肉との間に、同じ關係を樹立することは出来ない。體操家の腕は解剖學的方面から言へば善い腕である、けれどもそれは拳闘家の腕ではない、大工の腕でも、ヴィオリニストの腕でもない。それは大きな筋肉を持つて居る、けれどもそれは、それを産出した演習に於て以外は、頭腦の訓練せられたる召使ではない。

人が體操家である以上、體操は人にとつて一つの教育である——而して人間には、正當の時期に於て振起せらるゝ價值のある猿猴的要素といふやうなものがある。獨逸に於ては、ファーザー、ジャーンは愛國心を體操の次位に置いて居る。

私達は手や足の運動を見ることは出来る、けれども、この手や足の運動を産み出すところの内部の動機を見ることは出来ない。けれどもこれに就て、尠くとも、私達は斯ういふことを確めることは出来る、即ちその活動が實際に於ては何うあ

らうとも——その深さ若しくは浅さが何うあらうとも、結果はその活動そのものよりも深く行つて居るなどといふことはあり得ないといふことである。表面の運動は表面の結果を産出するに止る。働かしめられない限り、何者といへども強められ太められることはない。

心の體操に就ても同様のことが眞である。若し心の體操が、單なる體操であるならば——深き興味に裏附けられて居ない智的運動の演習であるならば、その時は、よく行つて、斯る運動を繰返すべき力を獲得することが關の山である。私達は斯くして、完全な自働機械を拵へ上げることが出来るかも知れない。實業家が學校へ供給を望むやうな機械の一片が出来るかも知れない。マックス、オレルはフランスの學校の成績に就て、斯ういつて居る。「生徒は一生それを暗誦することが出来る位完全に彼等の課業を勉強する」と。學校出の機械に對する何んといふ婉曲な皮肉であらう。

表面の活動は表面の成長を産するに過ぎない、若し心を離れた筋肉、又は生々した興味と縁の無

い心的經過が教育の目的であるとしてもいふならば、斯る活動は正當な手段たり得るであらう、この考へを危険であると思ふ人々には、精神的及び身體的の體操が實に親しい友達でなければならぬ、精神的及び身體的の體操は善き教育である。身心を筋肉で包んで了ふといふ點——肉の外殼と破り難き習慣とを作つて、思想の進歩しない場合には、これを效果的に閉ぢ込めて置くといふ點に於て、精神的及び身體的の體操は教育そのものよりも優れて居ると言はれるかも知れない。

けれども教育を否定せず、益々これを進歩せしめて行かうとする人々には——魂を生きた牢屋の中に永久に閉ぢ込めて置かずに、自由に解放することを望む人々には、單なる表面の活動は大損失の如く思はるのである。筋肉的若しくは智力的の平易の發達は、是等の人々にとつては、目的ではなくて機會に過ぎないのである、より以上の或るものに達する道程としてののみ重要であるのである。筋肉は收縮的組織として價值があるのではなく、意志の運搬具として、價值があるのである。

筋肉と心とは、等しく魂の機關であつて、魂の命令の下に訓練せられ、魂の要求に従つて訓練せられ遂に魂の街路となるべきものである。

健康的の運動といふことは單なる筋肉の收縮を意味して居るのでないことは醫者の長く認めて來て居る事實である其處には目的がなければならぬ、興味があればならない、興奮がなければならぬ、最善の結果を産み出すためには、心身二つながら係らされてゐなければならぬ。

問題は實質のそれであつて、形式のそれではない。

教育的價値を十分に備へた體操以外に、純粹な無感激の體操が、子供を訓練する上に於て、全然無價値であるとは言はれない。是等は悪しき姿勢悪しき習慣、若しくは生理的の歪形を矯正する爲めに、屢々役立つのである。けれども是等は教育的效果といふよりは、寧ろ外科的、整形的效果を持つものであるから、治療法の方に分類せらるゝのが至當である。

人は否應なしに、常に變化して行く。人は、幼兒

時代に於ては、彼の遊戯を統一し、而して彼のその後の生活を支配する、偉大なる射出的本能の權化である。創造、扶養、狩獵、爭鬪、其他の本能が彼の生活を形造る。是等のもの、範圍外に於ては、彼を發見することは出來ない。深い意味に於ては、彼は是等の本能そのものである、是等は彼にとつては究極の事實である、是等は存在の世界にまでの彼の能動的投出である。是等は彼の依つて以て組織せられて居る究極の、不可換的の實質である、彼の身體は是等の本能の道具である、彼の意や情は、是等の本能のエマネーションである。人は、各々創造者であり、扶養者であり、科學者であり、爭鬪者であり、狩獵者であり、詩人であり、市民であるのである、彼は是等のすべてを兼ねて居る。然らざる場合に彼といふものは存在しない。子供の成長を妨げることが出來るかも知れない、けれども未來に發見せられるかも知れない如何なる巫術を以てしても、子供を書物に變へて了ふことは出來ない、機械に變へて了ふことは出來ない。